

類社
備中國下道郡神社

三代實錄、貞觀十五年八月四日丙申、駿河國從五位下美和天神授從五位上、元慶二年五月十七日壬子、授駿河國從五位上美和天神正五位下、國內神名帳云、正二位三輪明神、

社領
當代御朱印高三十五石九斗余

飽波神社

飽波は阿久奈美と訓べし、和名鈔、部名飽波、假字上の如し、但在上下、○祭神少彦名命、風土○益津村に在す、今川關神と稱す、考例祭月日、○惣國風土記五十七殘缺云、惣國益頭郡飽波神社、大鶴額天皇六年戊寅十月、所祭少彦名神也、神寶八十二九三字田、

神位
國內神名帳云、正四位下飽波明神、

那閉神社

那閉は假字也○祭神事代主神、風土○當目村に在す、今虛空藏と稱す、考例祭月日、○惣國風土記五十七殘缺云、惣河國益頭郡那閉神社、男大迹天皇三年己丑四月、所祭事代主神也、神寶三十五東三字田、

万葉集三云
燒津邊吾去
燒津邊吾去
流云々々

神位

國內神名帳云、正五位下奈閉天神、

燒津神社

燒津は夜岐都と訓べし○祭神市杵島姬命、風土○燒津村に在す、今入江大明神と稱す、考例祭月日、○日本紀、景行天皇四十年、日本武尊初到駿河、中以燧出火之、向燒而得免、略中故号其處曰燒津、全文郡名の○惣國風土記五十七殘缺云、惣河國益頭郡燒津神社、瑞齒別天皇四年己酉、所祭市杵島比咩也、神寶三十東三畝三字田、和名抄、部名益頭郡万之とあるは、即ち此處なるべし、益頭は夜久都と訓しを、後に字によりて訛れる也、猶郡名の下併せ見るべし、○駿河國志に、燒津、草薙等神社は式内社にて、すつれも日本武尊の事跡にして、御同昧にましますと云り、

神位

國內神名帳云、正四位下燒頭明神、

社領

當代御朱印高七十石

有度郡三座 並小

有度は假字也、和名抄、部名有度、字式廿二、民部拾芥抄、國郡有度、○惣國風土記五十三殘缺云、惣河國島渡郡、東限藍染川、見限藍染川、後以藍染川爲限、西限狐崎、南限有度濱、一作北